Tsukuba Psychological Research
2003, **26**, 229-233

空想概念の多次元尺度構成法を用いた定義化

筑波大学大学院（博）心理学研究科　松井めぐみ

筑波大学心理学系　小玉　正博

Defining the concept of fantasy with multidimensional scaling

Megumi Matsui and Masahiro Kodama (*Institute of Psychology, University of Tsukuba, Tsukuba 305-8572, Japan*)

The purpose of this study is to define 'fantasy.' In Study 1, college students (N=8) evaluated the degree of similarity between the concept of fantasy, eight similar concepts (imagination, illusion, delusion, image, dream, daydream, thought and reminiscence) and reality. PAC analysis extracted six perspectives concerning concept contents and four perspectives concerning conceptual behavior in distinguishing between each concept. In Study 2, college students (N=91) completed an inventory created on the basis of the result of Study 1. Multidimensional scaling revealed the distances between concepts, and a new definition of fantasy is proposed, which reflects how normal people comprehend of fantasy.

Key words: fantasy, PAC analysis, multidimensional scaling

問　題

空想することはほとんど全ての人が行っている心的活動であるが，非常に私的な行いであるため，空想について他人と共有できる一般的な定義付けを行うことは困難である．また Person（1995）が述べているように，空想という言葉は様々な想像上の素材を指して使われるため，定義付けが難しい．よってこれまでの空想の定義は，空想と共通した部分がある別の心的活動か，空想に類似した概念と空想との差異から定義付けられることが多かった．例えば，梅津・相良・宮城・依田（1981）は空想を夢と思考の間に存在していて意識作用が少し弱められている時に生じるものとし，夢や思考との関係性から空想を定義している．Person（1995）も思考との関係から，空想は独特な想像思考であり，おもに実用的な目的よりも心理面や感情面での目的に貢献するが，境界線がはっきりしない場合もあると述べている．また妄想との関係から，空想は現実との矛盾に直面すると，容易に細部が修飾・改変され消失する（加藤，1993）点で妄想と区別されている．その他想像との関連から，空想とは想像の一種だが，意識的に特定の目的に向かって方向づけられることもなく，また現実指向性もあまりないまま，虚心状態で進行するもの（山本，1991）という定義がなされている．同じく想像との関連では，まず想像を“先行経験を解体して新しい形に再構成する過程”（田中，1988）とし，その上で空想を“想像過程が無目的に進行し，解体された過去の経験が何の目的にも制約されずに再構成され，決まった役割を持たない．このような想像が空想である．”（田中，1988）とした定義もある．この定義の場合，過去の経験を前提としており，“個人が過去のある時点における経験の想起に自己を没入させることで，必ずしも外的再生を伴わない”（梅津他，1981）とされる回想と一部共通している．

以上のように，意識状態や指向性をもとに空想を定義付ける他，内容にも注目して定義付けが行われるものもある．例えば，空想とは解決に向かって思考を導いていく働きや，考えたことと現実との対応

を確かめる働きが弱まって，ただ願望を充足させるような連想に身をまかせているもの（梅津他，1981）という定義や，空想の内容は無意識的要因によって彩られ，現実遊離的，逃避的，願望充足的なものが多い（山本，1991）という記述もある．おそらく内容という視点では，願望の充足や現実との距離が空想を定義する際に重要な観点となってくるのであろう．

またその他に，「空想」という言葉は英語では「fantasy」であるが，「daydream」を指すこともある．Singer（1975）はdaydreamを自分自身の基本的な身体的・精神的課題から注意をそらし，外界の対象を直接見たり聞いたりすることから逃れて，内部刺激に生じた一連の私的な反応に注意を向けることと述べている．Singer自身はfantasyとdaydreamを区別していないが，その2つを異なるものだとする考え方もある．例えば「daydream」を和訳した「白昼夢」について，空想よりもさらに目的性，現実指向性が弱められ，その体験を現実的なものとして意識しているもの（山本，1991）とする定義がある一方，白昼夢を“放心状態で願望や感情を基盤として空想が次々と続いて起こるもの”（梅津他，1981）としているものもある．またさらに，白昼夢は覚醒中に生じる空想の一種であるが，意識の統制作用，現実指向性，注意の転導はすべて弱まっており，内容はより現実遊離的で一方向的なものとなる（加藤，1993）という定義もある．同じく内容の観点から，白昼夢を観念や現実の出来事や願望が混在していて，願望はむき出しの形で現れ，夢の場合のように象徴的変容を受けない（加藤・保崎・三浦・大塚・浅井，1981）と定義付けているものもある．さらに，近藤（1986）は，「白昼夢」の下位概念に「空想」と「幻想」があるとし，幻想は無統制で相互になんの関連もないイメージが次々に湧き出て，観念や感情がそれに翻弄されるものであり，空想は多少とも自我による操作的な方向付けが加わり，話の筋書きが決定されるものとした．これらのように，白昼夢についても様々な定義がなされており，空想と白昼夢をどの程度同じものと見なしているのかは，研究者によってかなり異なっている．

以上に述べてきた様々な定義を概観してみると，空想を目覚めている時の内的な意識過程の一部ととらえることはできるが，意識過程のどこに空想を位置づけるか，あるいはどのような観点からその位置づけを行うのかという点でばらばらであり，研究者個人の恣意的な考えに基づいて定義付けがなされている．よって様々な定義が混在しているわけだが，おそらくそれは人がそれぞれ「空想」だと認識しているものに差異があるからなのではないかと思われる．しかしながら，実際に人々が空想をどのようなものだと認識しているのかについて，これまで調査を行って明らかにした研究はなく，大多数の人が抱いている「空想」を反映した定義付けは行われてこなかった．

そこで本研究では，空想と空想の類似概念に対して，まず比較する観点を調査によって抽出することを行い，次に実際に人々がその観点に基づいて空想と類似概念に対してどのように評定するのかを分析することで，「空想」とはどういうものであるのか，その概念を明確にし，定義付けを行う．

【調査1　空想と類似概念の差異をもたらす観点の検討】

目　的

空想とその類似概念を評定する質問紙の項目を作成するため，各概念同士はどのような観点で差異があると認識されているのか，個別に調査及び面接を行うことで明らかにする．

方　法

被調査者　茨城県内の国立T大学の学生8名（男性4名・女性4名），平均年齢は20.5歳（SD=0.53）であった．

調査内容　先行研究を参考に，空想の類似概念を8個（想像・幻想・妄想・イメージ・夢・白昼夢・思考・回想）を抽出した．さらに，概念同士の差異を検討しやすくするため，空想と対極にあると思われる「現実」の概念も入れ，全ての概念同士の類似性を8段階（0点：全く同じ～7点：非常に遠い）で評定させた．

分析手続き　被調査者ごとにPAC分析（内藤，1997）を行った．まず類似度の評定値をもとにクラスター分析を行い，その後個別に面接を行って，同一クラスター内にある概念同士の共通性と，クラスター間における差異についての聞き取り調査を行った．

結果と考察

クラスター分析の結果，8人の被調査者はそれぞれ距離8.0の段階で2もしくは3のクラスターが形成されていた．その結果をもとに被調査者に面接を行ったところ，まず空想と他概念を識別する観点には，概念内容と概念行為の2つの視点から成り立つことが明らかになった．具体的には，概念内容に関

しては「現実的－非現実的」「コントロールできる－コントロールできない」「訂正できる－訂正できない」「常識から逸脱－常識的」「願望が反映されている－願望が反映されていない」「論理的－非論理的」の6つが見出され，概念行為に関しては「健康的－病的」「コントロールできる－コントロールできない」「自分にとって有益－自分にとって無益」「意識的－無意識的」の4つが見出された．これらのうち，現実性や統制度，訂正可能性，願望の反映，意識的といった観点はこれまでの定義でも使用されていた観点であったが，常識からの逸脱度や論理性，健康性，有益度の観点は本調査で独自に抽出されたものであり，人が空想と他概念の違いを考える時に用いられる観点が新たに明らかとなった．よってこの10観点が，空想と他の類似概念を評定するために必要な観点であると考えられる．

【調査2　空想と類似概念との比較】

目　的

調査1で抽出された観点をもとに，質問紙を作成し，人々が空想と8つの類似概念に対してどのような評価を行っているのか明らかにし，空想の定義付けを行う．

方　法

被調査者　茨城県内の国立T大学の大学生と大学院生91名（男性52名・女性39名），平均年齢21.02歳（SD =1.41）．

質問紙　**空想と類似概念の評定尺度**：9つの概念に対し，概念の内容については6観点から，行為については4観点からの，計10観点で評定させる尺度を作成した（7件法・90項目）．

調査手続き　講義時間中に集団で実施

分析手続き　各概念同士の類似度を図示するため，データ行列の中に潜んでいる構造が視覚的に理解しやすい（Shepard, Romney & Nerlove, 1972）と言われる多次元尺度構成法を使用した．

結果と考察

1．空想と8つの類似概念の空間布置

9つの概念に対する内容と行為を合わせた10観点での評定について，多次元尺度構成法で分析を行った．評定値を非計量個人差ユークリッド距離モデルで類似性行列として分析し，適合度（Kruskalの Stress =.29，R^2=.92）と解釈のしやすさから2次元解を採用して，空想と8つの類似概念を2次元空間上に布置したものがFig. 1である．これより，空想は幻想，妄想，想像，思考の概念と近く，これらは自分で内容を創り出すことができるという点で類似しているのではないかと思われる．逆に夢，白昼夢，回想とは距離が遠く，その3つの概念に共通するものを考えると，自然にわき起こってくるものであるかどうかという点で空想と異なっているのではないかと思われる．この分析により，類似概念の中でもさらに空想と近い概念と遠い概念とが明らかになったのだが，これまで多くの研究者が空想と白昼夢を同じもの，あるいは一方が他方の上位概念であると考えていたのとは異なり，一般には白昼夢と空想は遠いものとして認識されていることが分かった．しかしながら，調査時に白昼夢という言葉が何を指すのかわからないという感想が多く寄せられたため，白昼夢という言葉自体が日常生活であまり使われておらず，よくわからないまま評定されたことが，今回の結果に現れている可能性があるのではないかと思われる．

2．各観点別の空想と8つの類似概念の空間布置

10の観点それぞれについて，9つの概念に対する評定値を多次元尺度構成法で分析した．非計量ユークリッド距離モデルを用い，解釈のしやすさから1次元解を採用した．Table 1はそれぞれの観点の適合度を示したもので，Fig. 2は観点別に9つの概念を1次元上に布置したものである．その結果，まず概念行為という視点から，空想とは「どちらかと言えば健康的な行為であり，コントロール可能だが意識的にも無意識的にも行っているもので，自分に

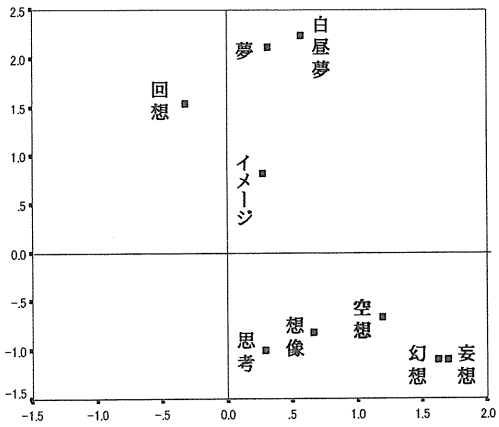

Fig. 1　多次元尺度構成法による空想と類似8概念の2次元空間布置

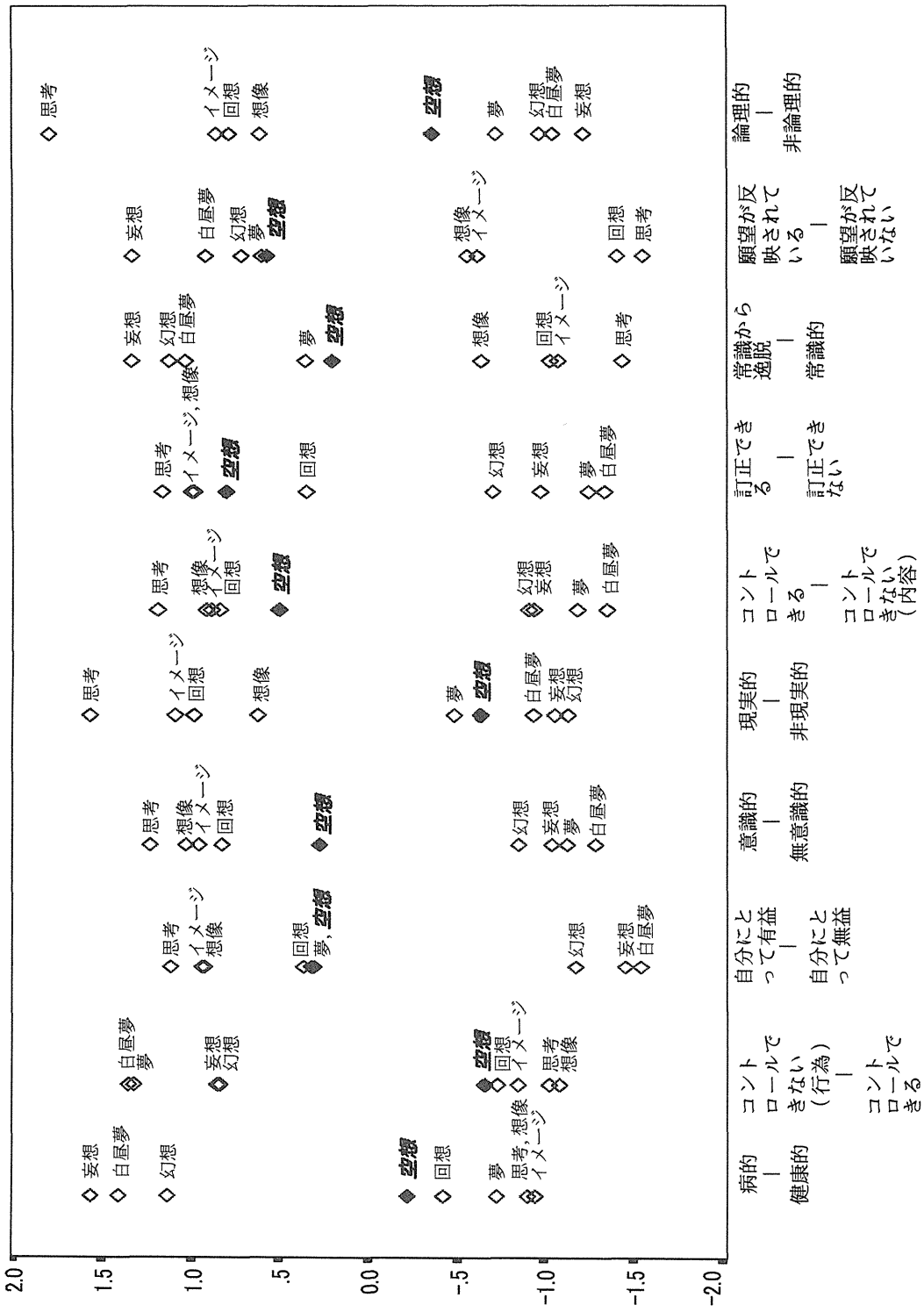

Fig. 2　多次元尺度構成法による観点別の空想と類似8概念の1次元空間布置

Table 1　各観点ごとの多次元尺度構成法における1次元解の適合度

観　点	Kruskal の Stress	R^2
健康的－病的	.11	.96
コントロールできる－コントロールできない（行為）	.16	.93
自分にとって有益－自分にとって無益	.18	.92
意識的－無意識的	.14	.94
現実的－非現実的	.11	.96
コントロールできる－コントロールできない（内容）	.16	.94
訂正できる－訂正できない	.22	.90
常識的－常識から逸脱	.16	.92
願望が反映されている－願望が反映されていない	.37	.62
論理的－非論理的	.13	.95

とって有益なものである」と言えることが明らかになった．これは概念の行為からみた空想の定義となるもので，この中でも特に，空想は健康的で有益なものであるとポジティブに捉えられている点が，これまで出されていなかった新たな空想の側面であろう．空想には感情の調整や，未来への対処手段といった機能があることが分かっており（松井，2001），人々はそのような機能を使うことで，空想を自分にとって有益なものとみなしているのではないかと思われる．

また概念内容という視点から，空想とは「非現実的で願望が反映されており，訂正可能でコントロール可能なもので，論理性と常識からの逸脱度は比較的中間に近いものである」と言えることが明らかとなった．願望の反映と訂正可能はこれまでに言われてきた通りの結果であったが，さらに人々が空想の内容をコントロール可能だと思っていることが今回の調査で明確になった．空想はその人の願望を反映したもので，自分でコントロールして内容を変えられるものであるということから，人々は意図的に願望を反映させた空想を行っていることが多いのではないかと考えられる．そしてその内容は，常識から逸脱している方にやや近いものの，程度は中程度であり，非論理的でもないことから，空想は妄想のように病的なものではなく，比較的健康なものであると言えるのではないかと思われる．

本研究の結果から，一般の人々が空想をどのように捉えているのかを反映させた，新しい空想の定義が産出された．ただし，今回の調査では被調査者が大学生のみであったため，より広く他の人々にも調査を行っていくことが，今後必要とされるであろう．

引用文献

加藤正明（編）1993　新版　精神医学事典　弘文堂

加藤正明・保崎秀夫・三浦四郎衛・大塚俊男・浅井昌弘（監）1981　新版　精神科ポケット辞典　弘文堂

近藤敏行　1986　幻想と空想の心理学　ナカニシヤ出版

松井めぐみ　2001　空想活動の適応的機能に関する研究－ストレスコーピングと精神的健康の観点から－　筑波大学心理学研究科中間論文（未公刊）

内藤哲雄　1997　PAC分析実施法入門：「個」を科学する新技法への招待　ナカニシヤ出版

パーソン E.S.　浅尾泰訳・岡　昌之（訳）1997　人はなぜ空想するのか　翔泳社
(Person, E.S. 1995 *By force of fantasy: how we make our lives.* New York: Basic Books.)

シェパード R.N.・ロムニー A.K.・ナーラブ S.B.　岡田彬訓・渡邊恵子（訳）1976　多次元尺度構成法Ⅰ　－理論編－　共立出版
(Shepard, R.N., Romney, A.K. & Nerlove, S.B. 1972 *Multidimensional scaling theory and applications in the behavioral sciences.* Vol. 1. *Theory.* New York and London: Seminar Press)

シンガー J.L.　小山睦央・秋山信道（訳）1981　白日夢・イメージ・空想　－幼児から大人までの心理学的意義　清水弘文堂
(Singer, J.L. 1975 *The inner world of daydreaming.* New York: Harper and Row.)

田中平八（編）1988　現代心理学用語事典　クローズアップ〈こころの科学〉を読みこなす　垣内出版

梅津八三・相良守次・宮城音弥・依田　新（監）1981　新版心理学事典　平凡社

山本多喜司（監）1991　発達心理学用語辞典　北大路書房

（受稿3月20日：受理5月21日）